

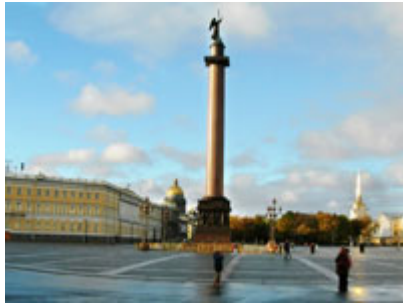
～ Санктペテルブルク～ ～ Санктペテルブルク～

ロシアの近代化をめざしたピョートル大帝がネヴァ川岸辺とそのデルタ地帯に着目し、まずペトロパブロフスク要塞を作ったのは 1703 年の事、この日が都市創立の日となっています。西欧への門となったこの都市は、1713 年ロシア帝国の首都となり、約 200 年間政治・経済・文化の中心となってきました。そして 1924 年 1 月 26 日レーニンの死後 5 日目にレニングラードという名に変わりました。ネヴァ川河口近くのひとつの島から作られていったこの都は、66 の川と運河が網の目のようにはりめぐらされた 101 の島からなり、308 の橋がかかる大都市となりました。ピョートル大帝の後、エカチェリーナ女帝、アレクサンドル 1 世、そしてニコライ二世に至るまで、ロマノフ王朝の歴代ツァーリがこの都市の権力を欲しいままにしてきました。市はツァーリの残した豪華な建築物や芸術品、革命の先例を受けた記念すべきものなどが数多くあります。そして 1991 年 10 月から、再び革命前の Санктペテルブルクと名前が戻りました。

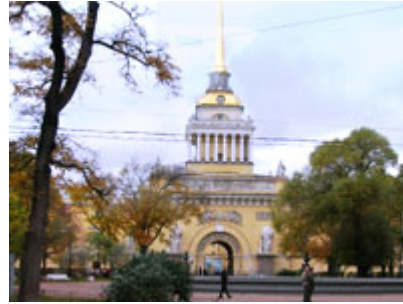


○冬宮前広場 Palace Square

市の中心にある広場で冬宮の前にあり、中央部には 1812 年ナポレオンに対する戦勝記念のアレクサンドル塔があります。1832～34 年に作られ、高さは 4.5 メートルあります。冬宮と向かい合っって旧参謀本部の建物が弧を描いて建ち、その正面の入口は、やはり戦勝記念の凱旋門となっています。この広場は、1905 年の「血の日曜日」事件や十月革命などの歴史の舞台となったところです。



冬宮前広場



旧海軍省

○旧海軍省 Admiralty

ネヴァ川の左岸に立つ建物で、ピョートル大帝創立のロシア海軍の中核として 1704 年から建築が開始され、1823 年今日の形に完成されました。

ロシア古典主義様式の代表作のひとつといわれており、現在はバルチック艦隊司令部など海軍の重要機関があります。

アドミラルティ(旧海軍省)の南側にある広場はアドミラルティ庭園で、噴水とゴゴリ、レールモンフ、グリンガなどの像が立っています。

○デカブリスト広場と青銅の騎士像 Dekablistov Square

アドミラルティの西側で、革命前元老院があったため元老院広場と呼ばれていました。1825 年、デカブリスト蜂起失敗の悲劇がこの広場で起こったことを記念して、デカブリスト広場と改名されました。現在は元の名前に戻されましたが、相変わらずデカブリスト広場と呼ばれています。

広場には、ピョートル大帝の青銅の騎士像があり、これは 18 世紀後半エカチェリーナ 2 世によって建てられたものです。後足で大蛇を踏み、前足を高く上げた荒馬に跨がる銅像の台石は 1600 トンもある花崗岩できています。





○聖イサク寺院 St Isaac's Cathedral

デカブリスト広場の南側にある寺院で、尖塔の十字架を含めて高さ 10.88m の大伽藍です。43 種類の鉱物を使って建てられた 19 世紀最大の建築物で、内部の装飾やモザイクを使ったイコン(聖像画)が美しく、大ドームの展望台からの街並みやフィンランド湾の見晴らしは格別です。



○ネフスキー大通り Nevsky Prospekt

デカブリスト広場のアドミラルティ(旧海軍省)からモスクワ駅のある蜂起広場まで一直線に延び、そこで方向を転じてアレクサンドル・ネフスキー修道院まで達する全長約 5km の、ペテルブルクのメイン・ストリートです。ゴーゴリ、ドストエフスキー等のロシア文学作品にしばしば登場する名所です。



○血の上の教会 Our Savior on the Blood

この教会は 1907 年、建築家パルランドにより立てられた寺院でモスクワの聖ワシリー寺院を再現したようなカラフルなネギ坊主が特徴です。1881 年、アレクサンドル 2 世は「人民の意思党员」によって暗殺された、彼の息子であるアレクサンドル 3 世の命により、暗殺が行われた場所の上にこの教会が建てられ、「血の流された上に建つ救世主教会」と呼ばれました。1997 年に長期間の修復工事が終わり、一般開放されています。内部には 308 点にも及ぶ見事なモザイク画が全面に施されています。



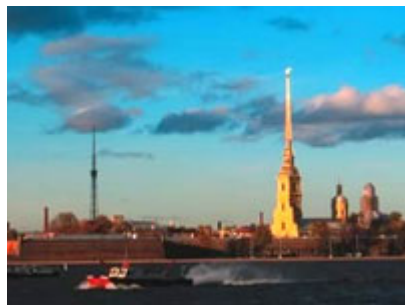
○カザン寺院 Kazan Cathedral

グリボエドフ運河の手前にあるカザン広場に、ローマ・サンピエトロ寺院を模したネオ・クラシック風の寺院です。1801 年にボローニンの設計により建設されたもので、コリント式の 136 の列柱のある半円形の回廊をめぐるしています。内部は、教会というよりは宮殿のホールの趣があります。北側の翼廊にはクトゥーゾフ将軍の墓所があります。

○エルミタージュ美術館 The Hermitage

200年以上の歴史をもつエルミタージュは、現在所蔵品数 270 万点を越え、パリのルーブル、ロンドンの大英博物館、ニューヨークのメトロポリタン美術館などと並ぶ世界最大の美術博物館の一つです。1764 年、時の女帝エカチェリーナ 2 世はベルリンから 225 点の絵を購入し、冬宮に絵画展覧用の建物を作り、エルミタージュ(「隠棲所」の意・フランス語)と名付けました。これが、この美術館の始まりです。「エルミタージュの宝物を鑑賞しているのは鼠と私だけ」と友人に宛てた手紙にあるほど、限られた人しかこのコレクションを見ることはできませんでした。収集品の増加とともに、エルミタージュは幾度も増築されました。現在のバロック様式の冬宮は、1754 年エカチェリーナ 2 世の命令でラストレリが建築の注文を受けたもので、その後 1837 年に内部の装飾をクラシック様式に変えられました。小エルミタージュは、エカチェリーナ 2 世の絵の展覧室として建てられ、旧エルミタージュも彼女の時代に建てられました。新エルミタージュは、最後の皇帝だったニコライ 2 世とその増えつづけるコレクションのために建てられました。そして 1852 年、一般に公開されたのです。

社会主義十月革命後、これらの芸術品は全て国のものとされましたが、スターリンは外貨獲得のためレンブラントの作品を含む貴重な作品を売ってしまいました。また、モスクワの資本家だったシチューキンやモロゾフの印象派、ポスト印象派の作品の多くを 1948 年に国有化しました。大理石の敷きつめられた床や柱、水晶のきらめく大シャンデリア群を持つ大ホール、階段、金箔の豪華な装飾と細やかなレリーフの壁に包まれた部屋、そこそこに置かれた世界でも珍しい貴石や宝石をちりばめた家具、調度品など訪れる人々は宮殿の豪華さに感嘆の声をあげることでしょう。



○ペトロパブロフスク要塞 Peter&Paul Fortress

ピョートル大帝の命でスウェーデン軍の侵略から市を守るために作られた要塞ですが、18 世紀の半ばから政治犯の監獄として使われるようになりました。ラジシチェフ・デカプリストたち・ドストエフスキー・レーニンの兄が収監されました。要塞内にある 121.8m の金色の尖塔をもつペトロパブロフスク寺院には、ピョートル大帝等ロマノフ王朝歴代ツァーリの棺があります。



○ロシア美術館 Russian Museum

ロシア美術館は、ロシア・旧ソビエトの絵画と彫刻を集めている美術館で、1895年に創設されました。革命前は小規模でしたが、1917年以降ソ連政府の計画的収集努力により、ロシア美術史の包括的縮図を示すというその役割にふさわしい27万点のコレクションをもつに至りました。

～サンクトペテルブルク郊外～



○ピョートル宮殿 Petrodvorets

市の中心から西へ30km、フィンランド湾に面したところにあるピョートル大帝の夏の宮殿です。かつてはペテルゴフの名で知られていました。1714年の北方戦争の戦勝記念として建てられたのですが、宮殿と庭園は豪華そのもので、とくに庭園正面に金色に輝くサムソンの大噴水階段をはじめ、150に近いさまざまな趣向をこらした噴水は訪れる人を魅了しています。



○エカテリーナ宮殿 Catherine Palace in Pushkin

市の南約25kmのところにあります。ここは18世紀初めから1917年2月までツァールスコエ・セロー(皇帝の村の意味)と呼ばれ、歴代ツァーリの夏の宮殿があったところです。

宮殿は1750年代に建てられたロシアの代表的なバロック建築で、現在は博物館になっています。宮殿はここを最も愛用したエカチェリーナ1世の名を冠しています。

~Memo~